

2 ^{びんねしりだけ} 敏音知岳

703m

北海道

川 口 洋 平

北海道の最北端宗谷岬からオホーツク海沿いにR238を南下して、浜頓別にある白鳥の飛来で有名なクッチャロ湖にいたる。ここからR275を音威子府^{おといねっぶ}方面に下ってくると中頓別町という街に入る。低山ではあるが目立つきれいな形をした敏音知岳に出会う。この地方ではアイヌ語で、尖った敏音知岳（ピン・ネ・シリ）は男の山、少し北東に位置するなだらかな松音知岳（マツ・ネ・シリ）は女の山という意味であるといわれている。

敏音知岳の麓にはピンネシリ温泉と道の駅がある。最北端宗谷岬から97kmである。因みにさらにR275を天北峠を越えて20kmほど南下すると音威子府である。このルートは大正5年以降、旧国鉄が音威子府から、中頓別、浜頓別、猿払、宗谷岬、南稚内までの天北線を走らせた。このピンネシリ温泉と道の駅^{まちねしり}は当時、敏音知駅として鉄道の駅であった。松音知駅は今もその姿を残しているらしい。

平成元年にJR天北線は廃止され、現在はその代替輸送手段として宗谷バスが同じルートカバーしている。R275を挟んで道の駅とピンネシリ温泉ホテル「望岳荘」がある。

私たちは2010年6月初旬にレブンアツモリソウとユースホステル桃岩荘に泊まることを目的に礼文島へ出かけた。桃岩荘のスタッフの熱い見送りを受けて3泊4日の礼文島を堪能した。その帰り6月11日に敏音知岳に登った。その前夜望岳荘に宿を取り、この周辺を楽しんだ。

ホテルのフロントの若い女性に聞いたところ、敏音知岳は現在ダニ発生の注意報が出ているとのことであった。同行メンバーはこの情報に腰が引けたが、せっかくここまで来たので完全防御の装備で登ることにした。

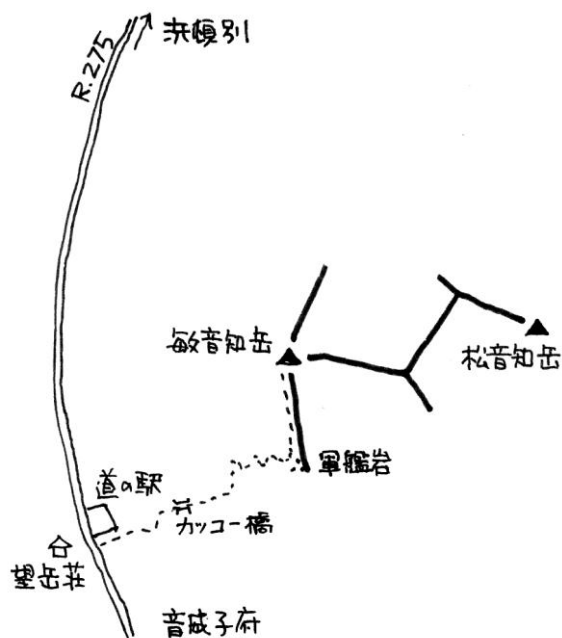
朝7時40分スタート。登山口は道の駅の裏にある。鳥居をくぐり、登山道に入る。トドマツの樹林帯の中、森林浴を楽しみながらのスタートとなった。標識によるとトドマツを5万7千本植樹したとの説明である。このトドマツの森林浴に着目し、中頓別の国民健康保険病院の住友和弘院長が森林浴療法を地元の人たちに展開し、トドマツから発せられるフィトンチッドが特に高血圧の改善に効果を挙げているらしい。トドマツの林の中にはクロユリ、エンレイソウ、ツバメオモトなどの可憐な花がひっそりと咲いている。

登山口から1km地点に千本シナの標識がある。いわゆる菩提樹である。ドイツではリンデンバウムである。樹齢は100～200年と推定される。高さ19m、樹廻り6.6mもある巨木である。眺めている内にシューベルトの有名な「菩提樹」の曲をつい口ずさんでいた。

泉に沿って 茂る菩提樹

したいゆきては うまし夢見つ・・・

カッコー橋で沢を渡り、程なく行くと白樺の泉の標識が立っている。今は水が出ていない。ここを過ぎるとやがてトドマツの森林帯を抜け、自然林へ入っていく。天然の石畳を過ぎるとジグザグの登りが始まった。「駒返し」、「大松の曲」、「水松の曲」と名づけられた折り返し点を過ぎると「軍艦岩」である。鉄梯子が掛けられている。ここを過ぎると樹林帯から抜け出し、眺望が開けるいよいよ本格的な登りとなる。太陽が直接照りつける。ダニ対策の完全防御装備のため、暑さには閉口した。でもダニが怖いので我慢の一徹である。細い尾根は滑りやすく設置されたロープに助けられながら10時20分に敏音知岳山頂に到着した。標高704mの標識が立ち、その横のピークには赤い屋根の祠が立っている。三吉神社にお参りし、無事を感謝した。北には利尻富士が見えるらしいがカスミがかかり残念であった。近くのペンケ山、パンケ山、松音知山、少しはなれて函岳(1129m)が望めた。



下山後、問題のダニの状況を調べたら、手にしていたタオルの中に1匹のダニを発見。やはり完全防備は役に立ったようである。

二万五千円：敏音知

交通機関：宗谷本線 音威子府下車 宗谷バスにてピンネシリ温泉下車

最寄りの温泉 ピンネシリ温泉「望岳荘」 TEL 01634-7-8111